

4. SGH 運営指導委員会からの評価～SGH 事業への取組の成果と課題

(1) 第1回

〈実施日時〉 平成30年10月27日(土) 13:00～14:00

〈実施場所〉 北野高等学校 校長室

〈次第と内容〉

① 開会

② 校長挨拶

③ 教育庁代表挨拶 (松下信之主任指導主事)

中間発表会では質疑応答が活発に行われた。また、発表会が終わった後に生徒たちが指導・助言の先生方にさらなる助言を求めている姿が印象的であった。

④ 代表選考および事務局より報告

＊中間発表用のループリックによる各グループの得点集計結果をもとに協議した結果、以下の4グループをそれぞれ外部で行われる大会や発表会に派遣することに決定した。

i SGH 全国高校生フォーラム(12月15日・東京)

ポスター発表、英語で説明→英語系4(東南アジアに学ぶ授業中の眠気対策)

ii SGH 甲子園(31年3月23日・関西学院大学)

口頭発表またはポスター発表 英語または日本語→社会系3(“大国の脅威に屈しない”ラオス 発展のために)

iii 大阪教育大学附属高等学校平野校舎の発表会(31年1月12日)

口頭発表 日本語→社会系2(インドネシアで五輪開催を)

iv GLHS10校合同発表会(31年2月9日・大阪大学)

口頭発表 日本語→理系3(絵画と天文学)

＊事務局からの報告の中で、課題研究SGH関連講座を担当した教員から課題研究に取り組む生徒の様子についてのコメントがあった。

主なポイントは以下の通りである。

- ・東南アジア探究の中で、中国との関わりに注目するものが出てきた。
- ・イスラーム社会のとらえ方に関しては、まだ不十分な面もある。
- ・生徒の視野が拡大してきていることがうかがえる取組がある。
- ・探究活動の中で、生徒が柔軟に発想できることが注目に値する。
- ・事実の記述と感性とを融合させた取組はすばらしいと思う。

⑤ 協議

中間発表会において生徒から活発に質問が出るようになった背景、現在の北野生が置かれている状況(これは「特別な」境遇であること、その境遇は自分たちを支えてくれている周囲の人々のおかげであること)などの話題が出た。

〈成果〉

運営指導委員の一人から、「課題研究を担当している教員が生徒をプラスに評価していることが印象的である。この取組は平成の legacy になるのでは？」というお褒めの言葉をいただいた。

(2) 第2回

〈実施日時〉 平成31年 3月 2日(土) 10:00～11:00

〈実施場所〉 北野高等学校 校長室

〈次第と内容〉

① 開会

② 校長挨拶

③ 教育庁代表挨拶 (松下信之主任指導主事)

SGH 指定第5年次が終わろうとしている。「後継事業」をどう発展させていくかが課題。

④ 事務局より報告 要点は以下の通りである。

- ・平成30年度 of 取組で特徴的なことから～課題研究 SGH 関連講座の人数の増加、高校生公開討論を課題研究基礎講座の中に位置づけたこと など。
- ・中間報告において改善が必要であると指摘された点に対する本校の取組について
- ・課題研究の発表会では、ポスター発表を中心に据えて生徒が質問しやすい雰囲気を作ったことが、口頭発表において生徒からの質問が活発に出るようになった要因。
- ・関西学院大学アンケートなどに注目すると、課題研究の普段の取組や発表会でもらうアドバイスが生きていることがわかる。生徒の指向に合致した質問項目ならば顕著な数値が出る。
- ・課題研究基礎講座の特に学内留学について。イマージョン・プログラムという学びのプロセスが、生徒の向上心や意欲につながっている。
- ・SGH の取組に深く関われる教科と、関わりにくい教科がある。これからの運営を考えていく際には、教員スタッフの持続可能性ということが課題になる。

⑤ 協議 ～運営指導委員からの助言の中で、特徴的なものを挙げる。

- ・生徒はとにかく忙しい。だから生徒の持っている意欲を示すことが大切。生徒の取組には努力してやることと、いわゆる「やっつけ仕事」とがある。一定の結果は出すが、実は「もっとできる」という自負を持っている。生徒を本気にさせるともっとすごい結果につながる。
- ・(学内留学を例に挙げて) 英語では論旨を徹底的に単純化することによって本質を突く、論理で勝負するという考え方がある。本質を突く、論理性という力を鍛える役割を担うのが国語科や数学科では？
- ・(以前行われた北野 OB による講演のことを想起して)「世の中に貢献してこそ真のエリート」という言葉が印象に残っている。
- ・タフな生徒を育ててほしい。その意味で勉強と体力の両方を求める北野の教育は良いと思う。今の若者はストレスに弱い。回復力(レジリエンス)が重要。

〈成果〉

北野高校は教育庁との協議を通じて SGH「後継事業」計画作成に関与してきた。本日の運営指導委員会でいただいた数々の助言は、「後継事業」について北野の取組を構築していく上での的確な指針になるという確信を得た。